



ツーリズム EXPO ジャパン 2024 を振り返って(1)「新たな旅の創造」がテーマとなった TEJ 観光大臣会合 (2) WELCOME RECEPTION を盛り上げたインドの伝統舞踊 (3) 活気あふれる展示会場 (4) 観光 DX や世界遺産などが軸となったテーマ別シンポジウム



26日の海外旅行シンポジウムのテーマとなる中部国際空港(セントレア)

25日スケジュール

9:30~10:00 10:10~11:00	Aichi Sky Expo L3・L5会議室
オープニングセレモニー／第9回「ジャパン・ツーリズム・アワード」表彰式	
13:30~14:30	Aichi Sky Expo L3・L5会議室
基調講演「迷子になろうよ、いっしょに。」 株式会社スタジオジブリ 代表取締役副社長 中島 清文氏	
14:45~16:45	Aichi Sky Expo L3・L5会議室
第8回 TEJ 観光大臣会合「激変する地域観光～地域連携戦略と人材育成」	
18:00~19:45	Aichi Sky Expo 展示ホールB
WELCOME RECEPTION	

発行：ツーリズム EXPO ジャパン推進室

日本の“ど真ん中”から世界へ羽ばたく ツーリズム EXPO ジャパン 2025、初の愛知県開催 セントレアの国際化拡充、北陸の復興支援、業界活性化など視野に

世界最大級の旅の祭典「ツーリズム EXPO ジャパン 2025 愛知・中部北陸」がきょう、Aichi Sky Expo (愛知県国際展示場) で開幕した。主催は日本観光振興協会、日本旅行業協会 (JATA)、日本政府観光局 (JNTO) で、国内外の観光関連事業者が「愛知・中部北陸の魅力発見」「中部国際空港(セントレア)のさらなる国際化」「北陸地域の復興支援」「BtoB 強化による業界の活性化」を目的に結集し、9月28日まで行われる。初の愛知県開催で、日本の観光が広域で底力を発揮していることを示す絶好の機会となる。

総合テーマは「旅は“知”の再発見」。人々のニーズ、価値観が多様化するなか、旅は常に新たな出会いの連続であり、その体験からさまざまなことを学ぶことをアピールする。観光の持続可能性や地域経済の活性化が重要視されるなか、中部国際空港を拠点とした観光需要創出への期待は高い。世界5大陸・80カ国以上の国と地域、日本全国から数多くが出展し、観光産業の発展を目指す。

25、26日は展示とともに観光関係者が商談を繰り広げる業界・プレス日、27、28日は旅行の最新情報を広く発信する一般日。業界日には5500セッション以上のアポイント商談が

予定されているほか、BtoB交流の強化に向けて日本コンベンション協会や名古屋商工会議所からバイヤーが初参加し、観光産業の社会的な成長において重要な役割を担うMICE・教育旅行の深化を図る。

また、中部・北陸9県(富山、石川、福井、長野、岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀)による共同ブース設置は初めての試みで、文化・自然・食・体験など多彩な観光資源の紹介とともに、能登半島地震や豪雨災害からの復興に向けた息の長い支援を継続する場となる。

業界向けの「TEJカンファレンス」は、愛・地球博記念公園に「ジブリパーク」を運営するスタジオジブリ代表取締役副社長の中島清文氏による基調講演が注目、地域連携や環境問題を含めた示唆が期待される。8回目となる TEJ 観光大臣会合のテーマも「激変する地域観光～地域連携戦略と人材育成」であり、地域の総合力の発揮についてグローバルで議論される。テーマ別シンポジウムは、国内、海外、訪日に加え、愛知県が先陣を切った「休み方改革」にもフォーカスする。

目標来場者数は10万人。国内外の観光の魅力を引き出す機会になりそうだ。

ごあいさつ



ツーリズムEXPOジャパン実行委員長
日本旅行業協会(JATA) 会長
高橋 広行

新たな“知”を再発見する4日間に

ツーリズムEXPOジャパン2025 愛知・中部北陸がこのように、盛大に開催できますことを嬉しく思いますとともに、地域の皆様をはじめとしまして、開催にあたり支援をいただきました全ての皆様にあらためて感謝申し上げます。

さて、愛知県で初開催となるツーリズムEXPO ジャパンではありますが、今年のテーマを「旅は“知”の再発見」といたしました。旅の素晴らしさや魅力を会場であらためて感じていただき、シンポジウムやセミナーなど最新の情報なども学べるイベントとなっています。

9月25日(木)、26日(金)の2日間は業界日として、世界中から観光業界の皆様にご参加いただき商談会などを行います。この場で多くの新しい観光ルートなどが生まれ、ツーリズムの活性化につながることを期待しています。

27日(土)、28日(日)は、一般の方々にご来場いただく日となっています。旅行好きの方はもとより、初めてこのイベントに来ていただく方々にも十分に楽しんでいただける展示会を開催いたします。中でも注目は、初の試みとなる開催地全ての県が出展する中部・北陸9県共同ブースです。各県の観光地の魅力や特色を生かした体験ができるブースで、皆様にお楽しみいただけることと思います。

海外からはアジアを中心として、アメリカ、ヨーロッパ、オセアニア、中東、アフリカなど世界中から出展をいただき、このイベントで世界一周の気分を味わうことができ、ぜひ実際にその地に足を運んでみたいと思われることでしょう。

また今回は、愛知県でジブリパークを運営するスタジオジブリ中島副社長に初日の基調講演を行っていただき、他、愛知県出身の著名人も応援に駆けつけてくださいます。27日は岩田剛典さん(名古屋市出身)にスペシャルトークイベントを行っていただきます。そして今年のスペシャル・サポーターには瀬戸朝香さん(瀬戸市出身)にご就任いただき、28日にトークショーを開催します。

充実した盛りだくさんのイベントをご準備しておりますので、皆様ぜひお楽しみください。本日から4日間どうぞよろしくお願いいたします。

message

この度、ツーリズムEXPOジャパン2025 愛知・中部北陸のスペシャル・サポーターを務めさせていただき事になりました、瀬戸朝香です。

私にとっての『旅』は思い出作り、リフレッシュ、新たな発見、そして出会い…と素晴らしいものばかりです。旅で得た経験は、この先の人生に必ず繋がっていきます。

皆さんにとっての『旅』はどんなものですか？ 旅の素晴らしさを1人でも多くの方に感じて頂けるよう発信していきたいと思っています！



ツーリズムEXPO ジャパン2025 愛知・中部北陸
スペシャル・サポーター 瀬戸朝香さん

*瀬戸朝香さんは、9月28日(日)の会場トークショーに出演予定です。

地域連携・人材問題などグローバル
80カ国以上が参加、中部・北陸共同出展、休み方改



愛知県で初開催となる「ツーリズムEXPO ジャパン」。発展を続ける一方で、地域格差、人材不足などさまざまな課題が顕在化している観光産業のいまにカンファレンスで迫るとともに、海外旅行、国内旅行、インバウンドの充実したビジネス商談の場を提供。旅へのあくなき思いを共有し、未来へと羽ばたく場となる。

●TEJカンファレンス

基調講演はスタジオジブリ・中島氏が語る
広域観光にも資する唯一無二の世界観

全体テーマ「旅は“知”の再発見」(Travel for Discovery and New Encounters)をもとに開催される業界向けのTEJカンファレンスは、スタジオジブリ代表取締役副社長の中島清文氏による基調講演、第8回TEJ観光大臣会合、愛知・中部北陸にちなんだ休み方改革、セントレアからのアウトバウンド需要喚起といったテーマ別シンポジウムなど、観光産業の未来に向けた地域の持続可能性、旅を深める視点である学びにフォーカスを当てた内容となっている。

スタジオジブリの中島氏による基調講演のタイトルは『迷子になろうよ、いっしょに。』。これは森と共存しながらつくられた愛・地球博記念公園(モリコロパーク)のジブリパークと同じく、スタジオジブリが東京で運営する三鷹の森ジブリ美術館のキャッチコピーである。日本が世界に誇るアニメーション文化を支えてきた中島氏が、地域とともに広域観光にも資する独特の世界観をいかに構築してきたかを示唆する貴重な講演となりそうだ。

世界の観光トップが集う「第8回TEJ観光大臣会合」は、世界5大陸から約10カ国の観光大臣・観光行政トップ、さらにUN Tourism、世界旅行ツーリズム協議会(WTTC)、太平洋アジア観光協会(PATA)、東アジア・アセアン経済研究センター(ERIA)、アドベンチャー・トラベル・トレード協会(ATTAT)の代表が、「激変する地域観光～地域連携戦略と人材育成」をテーマに議論を交わす。

観光における地域連携は、単なる周遊型ルートや商品造成にとどまらず、オーバーツーリズム問題も含めた社会課題を解決し、地域全体の持続的な発展をデザインする観光地域づくりにつながる。世界各地でどのような取り組みが進んでいるかを知るとともに、日本の観光産業が今まさに直面している人材不足問題へのアプローチが期待される。

観光シンポジウムに「休み方改革」登場
愛知発・ラーケーションで需要創出

テーマ別シンポジウムは、観光産業の軸である「国内観光」「海外旅行」「インバウンド」に加え、今年は全国知事会、愛知県の主催による「休み方改革」を取り上げる。愛知県が推進する「休み方改革」プロジェクトは2024年、観光業の発展に貢献し「ジャパン・ツーリズム・アワード」の最高賞である国土交通大臣賞を受賞。平日

FOCUS TEJ2025

課題に取り組み
革にも注目



セントレアには国内・国際線合わせて40社以上が就航

の閑散期への観光需要のシフト、学びと休暇を組み合わせたラーケーションが全国的に広がる契機となった。愛知県とともに、大分県別府市など各地でどのように浸透しつつあるかを知る機会となりそうだ。

国内観光シンポジウムは、近年の地震、津波、台風といった自然災害で観光のレジリエンスが重要視されるなか、身のまわりにあるモノやサービスを日常時はもちろん、非常時にも役立つようにデザインしようという考え方である「フェーズスリー」に着目し、TEJを通じて提示・啓発・普及を図る。インバウンドシンポジウムは、「地域の多様な食の力を活用したガストロノミーツーリズム」がテーマ。和食や伝統的酒造りは、ユネスコ無形文化遺産に登録され、訪日旅行領域における商材としても注目が集まっている。歴史や潮流の解説、海外の事例紹介を通じて、日本におけるガストロノミーツーリズムの可能性について考える。

海外旅行シンポジウムは、まさに愛知県開催ならではの「セントレアからいかにして日本人海外渡航者を増やしていくのか」に焦点を当てる。中部地区ではインバウンドが好調な半面、日本人の海外旅行の伸び悩みが深刻で、他の主要空港に比べ国際線の復便・新規就航が遅い課題も抱えている。空港、航空会社、旅行会社のキーパーソンがパネルディスカッ

ションに参加し、現状をつまびらかにしつつ、今後の対策を議論する。

実務に直結するツーリズム・プロフェッショナル・セミナーは25、26日の業界・プレス日に開かれ、ラインナップも観光DX、旅行ビジネスで直面する法務課題、カスタマーハラスメント対応、第2のふるさと、新しいDMOのガイドライン、日本遺産ツーリズム、酒蔵ツーリズムなど多彩に揃った。観光産業が直面する課題の知見、実務への対応を専門家から得られる重要な機会として定着している。

顕彰事業では、第9回「ジャパン・ツーリズム・アワード」の表彰式が行われる。組織・企業・団体・個人によるツーリズムの発展・拡大に貢献し、「旅のチカラ」の再生と持続可能性の確保につながる取組を表彰する業界を代表するアワード。今年は去年の119件から倍増に近い213件の応募が国内外から寄せられた。国土交通大臣賞は、株式会社KURABITO STAYの「酒蔵から始まる、地方創生と日本酒ツーリズムの可能性を創る酒蔵ホテル®「KURABITO STAY」」。経済産業大臣賞は、ひがし北海道観光DXプラットフォームの「ひがし北海道・交通事業者がつなぐエリアまるごと観光DX」、観光庁長官賞は、愛知県立足助高等学校観光ビジネスコース、株式会社シークルーズ、株式会社wondertrunk & co.の3団体が受賞した。

25日のラストは、国内外の来賓、協賛社、商談会バイヤー、出展者などが参加する「WELCOME RECEPTION（ウェルカムレセプション）」。

ビジネスネットワーキングの創出はもちろん、にっぽん真ん中祭り、名古屋おもてなし武将隊、伊賀忍者などインバウンド向けにも期待される演目が盛りだくさんで、味噌串カツ、鰻の巻き寿司、日本酒など、開催地ならではの飲食でもてなす。

●展示商談会

セントレア発海旅促進へ、80カ国以上が出展
地域連携に向け中部・北陸9県共同ブースも

業界日に加え、27、28日の一般公開日に消費者も見学・体験できる展示ブースは、海外・国内の最新情報を発信、参加者同士も観光産業のいまを共有する最も重要な場だ。

中部国際空港（セントレア）のさらなる国際化に向け、海外からは80カ国以上が出展してそれぞれの魅力を訴える。注目は若い世代の交流が深化し、今回

も最大規模で出展する韓国、さらに中国、台湾、香港などのアジア勢だ。また、インド屈指の歴史都市であるジャイプールを州都とするラジャスタン州が州として単独で初出展するなど、展示からは日本と同じく世界各国も地域観光の発展を重視している様子がうかがえる。ブータン国営航空、南米のベネズエラなどの新顔にも注目だ。

国内旅行では、中部・北陸9県（富山、石川、福井、長野、岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀）による初の共同出展「GO CENTRAL JAPAN」が目玉。9県は地元伝統芸能をはじめとしたステージパフォーマンスも展開する。中部と北陸エリアはこれまでも「昇龍道プロジェクト」などで協働しているが、TEJ開催を通じて、よりセントレア発の広域周遊の価値をアピールする。協働の背景には、中部経済連合会、北陸経済連合会など経済界からの後押しもある。中部エリアはもとより、関東、関西圏からの来場を誘致するため、東海旅客鉄道、名古屋鉄道、旅行各社も交通とチケットを組み合わせた特別なセットプランを用意するなど、業界を挙げて開催を盛り上げている。

また、高付加価値旅行の提案、日本の二次交通不足が課題となるなか、新たな交通手段としてヘリコプターを商材とする川崎重工業、レオナルド社、エアロトヨタの初出展は、来場者の冒険心をかき立てそうだ。アニメやドラマの舞台をめぐるコンテンツツーリズムのエリアも新設し、次世代型の旅を提案。中部圏の大学をはじめ、教育機関の出展も多く、人材育成・確保の観点からも注目される。

このほか、25、26日にデジタル技術やサービスで観光産業を支援する事業者向け「トラベルソリューション展2025」には多数のスタートアップ企業が参加。例年どおり、インバウンド関連ビジネスを創出する「VISIT JAPAN トラベル&MICEマート2025」もJNTOと合同開催する。

GO CENTRAL JAPAN
富山 石川 福井
TOYAMA ISHIKAWA FUKUI

GO CENTRAL JAPAN
長野 岐阜 静岡
NAGANO Gifu SHIZUOKA

GO CENTRAL JAPAN
愛知 三重 滋賀
AICHI MIE SHIGA

「GO CENTRAL JAPAN ～9県の感動旅を～」をコンセプトに中部圏9県が共同出展

JCB

いつでもおトクに
海外旅行は、JCBと。

Get!
JCBのサイトで
クーポンが
もらえる!

※2025年8月現在

Food & Sweets
フード & スイーツ

最大 **50%** OFF!

ドリンクやデザート
のサービスも!

Shopping
ショッピング

最大 **30%** OFF!

オリジナルプレゼントが
もらえるお店も!

Hotel
ホテル

最大 **60%** OFF!

人気ホテルの
特別優待も!

主催・開催地側からのごあいさつ

「オールジャパン」の取り組みで
観光産業の持続的発展を目指す



公益社団法人日本観光振興協会
最明 仁 理事長

世界最大級の旅の祭典「ツーリズムEXPOジャパン」がAichi Sky Expo（愛知県国際展示場）にて盛大に開催できますことを主催者として大変うれしく思いますとともに、地元をはじめ、開催にあたりご支援いただきました全ての皆さまに心から感謝申し上げます。

現在、我が国の観光市場は国内旅行と訪日外国人旅行者数がコロナ禍前を超える勢いで伸びています。一方、日本人の海外旅行は、いまだ6割程度の水準にとどまっています。また、訪日外国人旅行者が一部の地域で受け入れ容量を超えたことで起きる混雑、ゴミのポイ捨てや私有地への無許可立ち入りなどのマナー違反、日本との生活習慣の違いを理解せずトイレを汚したりするなど住民生活の観光への印象が低下するといった問題が発生していることから、旅行需要の平準化・分散化、タビマエ、タビナカでの旅行者への啓蒙も課題となっています。

さらに持続可能な観光（サステナブル・ツーリズム）への関心も高まっており、自然環境、社会文化の保全、利活用を通して経済的な成長を観光で実現を目指す動きも各地で活発になってきています。

私どもはツーリズムEXPOジャパンを産官学、そして地域が一体となった「オールジャパン」の取り組みの象徴と位置づけています。観光産業の持続的発展に貢献することを目指し、次代の観光のあり方を提案し、国内外の多彩な事業者、団体が一堂に会することで、出展者と来場者が新たなビジネスを創出したり、ヒントを見つけたり、活発な商談、マッチングの機会になることを期待しています。

最後になりますが、「ツーリズムEXPOジャパン 2025 愛知・中部北陸」が「令和6年能登半島地震」からの被災地域の復興の一助になりますよう、会場でさまざまな取り組みを行います。

是非多くの皆さまにご来場、お楽しみいただきたく、本稿をお読みいただいた皆さまからも周りの皆さまへ積極的にお声がけください。本日より4日間、どうぞよろしくお願いいたします。

“インバウンドの力”を地域の活性化に
地方への需要分散化と情報発信を強化



日本政府観光局
蒲生篤実 理事長

2024年の訪日外客数は過去最高の約3687万人を記録しました。2025年も堅調な訪日需要と航空便の回復等により、過去最速で2000万人を突破し、旅行者数・消費額ともに非常に好調に推移しています。この場をお借りして、関係者の皆様のご尽力、ご協力に深く感謝申し上げます。こうしたインバウンドの力を地域の活性化につなげるためにも、私どもは地方誘客にさらに注力していく必要があると認識しています。

具体的には、高付加価値旅行やアドベンチャートラベルの推進、各種キャンペーンの継続・拡大等に加え、MICEの誘致・開催促進により、地方分散を図っていきます。これらの取り組みを地方運輸局、地方自治体、広域連携DMO、各地のコンベンションビューロー等と協力して推進することで、一部の都市に一時的に観光客が集中することによる影響を軽減するという観点も重要だと思っています。

JNTOは毎年、ツーリズムEXPOジャパン（TEJ）に合わせ、日本最大級の訪日旅行商談会「VISIT JAPAN トラベル&MICEマート」を開催しています。今年は愛知県で初開催となりましたが、商談会終了後、中部・北陸地域を中心に12コースで視察を実施し、来日した海外バイヤーの皆様に日本の地方の多彩な魅力を直接体験していただきます。また、その他の事業でも、中部地域の情報発信に取り組んでいくと共に、北陸復興支援としては、被災地の正確な情報発信を継続して実施し、復興に貢献していく所存です。

引き続き日本の観光産業の発展のために、TEJと共に歩んでいきたいと考えています。

中部・北陸の魅力を世界へ
観光の未来を切り拓くTEJ2025



一般社団法人中部経済連合会
勝野 哲 会長
(開催地連絡協議会会長)

この度、「ツーリズムEXPOジャパン 2025 愛知・中部北陸」が初めて愛知県で開催されますことを、地元関係者の一員として大変喜ばしく思います。中部・北陸地域は、日本アルプスの雄大な山々をはじめ、豊かな自然が育む食やものづくり、長い歴史と文化が息づく多彩な魅力

を有しています。

今回のツーリズム EXPO ジャパンでは、中部・北陸9県が初めて共同でブースを構え、「GO CENTRAL JAPAN ～9県の感動旅を～」をテーマに、五感で楽しめる展示や体験を通じ、地域の新たな価値を国内外へ発信します。

観光産業は今や、自動車産業に次ぐ規模へ成長し、地域経済の柱となっていますが、当地域はその潜在力を十分に活かし切れていないのが現状です。これを打開するには、行政の枠を越えた広域連携と新たな発想による観光戦略が不可欠です。今回のツーリズムEXPOジャパンが関係機関の連携を促進し、新たな観光モデル創出の契機となることを期待しています。

来年以降、「アジア・アジアパラ競技大会」をはじめ、国際的イベントが当地域で相次いで開催されます。今回のツーリズム EXPO ジャパンで得たネットワークや発信力を次へとつなぎ、中部・北陸の「文化」「観光」「おもてなし力」を一層高めるため、引き続き、関係者の皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

TEJを契機とする中京圏・全国との連携で
観光産業通じた地域復興を



北陸経済連合会
金井 豊 会長
(開催地連絡協議会副会長)

北陸地方は、昨年2024年3月の北陸新幹線敦賀延伸により、富山・石川・福井の三県が新幹線でつながり、周遊観光がしやすくなりました。3000m級の山々が連なる北アルプスや変化に富んだ日本海の景観、心を潤してくれる古刹や庭園、伝統を守りながら進化し続ける伝統工芸、カニをはじめ豊富な海の幸や地酒、自然美豊かな温泉地など、北陸地方は自然と歴史に育まれた多くの魅力で溢れています。

これら北陸地方の魅力を、この世界最大級の旅の祭典である「ツーリズムEXPOジャパン2025 愛知・中部北陸」において余すことなく発信し、10万人を超える来場者に触れていただくことは、北陸地方の観光にとって大きな飛躍のチャンスであると期待しているところです。

また、この大きなイベントを契機として、中京圏および全国の皆様との連携を、より一層強化していきたいと考えています。

なお、2024年1月の能登半島地震から1年9カ月余りが経過しました。能登地域では、道路などのインフラ復旧は進んでいるものの、地域産業が受けたダメージは依然として残ったままです。

重要な産業である観光産業を復興させるためにも、ぜひとも皆様には、能登に対する息の長いご支援をお願い申し上げます。

“ものづくり県”のイメージを越える
愛知の多様な魅力を全国・全世界に発信



一般社団法人愛知県観光協会
安藤 隆司 会長
(開催地連絡協議会副会長)

本日、世界最大級の旅の祭典である「ツーリズムEXPOジャパン」がここ愛知で初めて開催されたことを喜び、また感謝申し上げます。愛知県と各市町村、経済団体はじめ観光団体及び事業者の多くの皆様のご尽力により開催の運びとなりました。あらためまして厚く御礼申し上げます。

今回の「ツーリズムEXPOジャパン」に数多くの皆様にご来場いただき、国内外の様々な観光情報に触れていただくことで、「旅行へ行きたい」というわくわくする気持ちを感じ、旅行の楽しさを再発見していただければと思っています。

さて、ここ愛知は、「ものづくり県」として産業のイメージが強い地域ですが、食文化・グルメ、観光・歴史、自然など観光の魅力も幅広く、訪れていただきたい場所が県内あちこちにあります。今回、全国・全世界の方々に、直にその魅力を実感・体感していただき、観光を存分に楽しめるエリアとして、この愛知を認知いただくことができれば幸いです。私ども愛知県観光協会は、今回の「ツーリズムEXPOジャパン」をその大きなきっかけにしていきたいと取り組んできました。

開催される4日間を大いに盛り上げ、よりたくさんの皆様にこの愛知に旅行に行ってみたいと思っていただけるよう、地域の方々と一丸となって、愛知の観光の魅力を来場者の皆様にしっかりとお伝えしてまいります。